

Accelerator @Campus ONLINE

2021



市長と学生との懇談会

食料支援事業の裏側

国家プロジェクトと筑波大学
筑波大学誕生秘話

全代会活動報告

時間をかけるのは

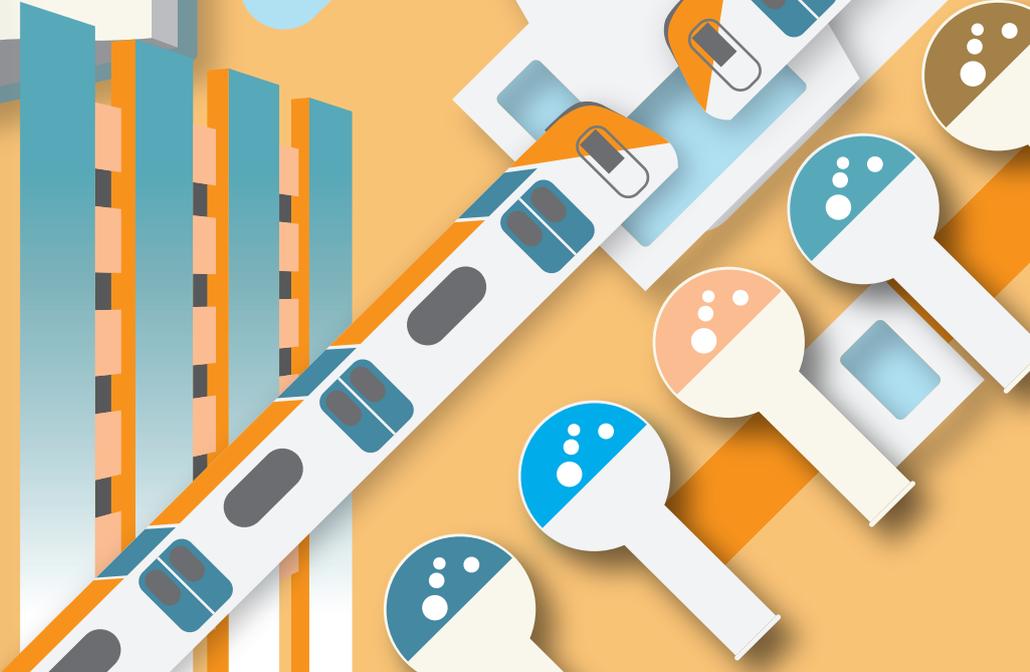


Food Supply

研究の園に迫る。
都市

Library

Express



時をかけるつくばの都に追いつく

1987年に制定されたつくば市は、筑波研究学園都市として市の全域が世界的な科学技術拠点の1つとなっている。実は、筑波研究学園都市の建設計画は市の制定前である1963年から始まっていた国家プロジェクトだ。

学園都市の建設目的は、「国の試験研究機関と新設した筑波大学を中核として、高水準の研究と教育を行うための拠点を形成」することが挙げられている。大学が国家プロジェクトによって建設され、都市の中核を担う例は日本では珍しい。多数の研究施設やそこで行われる教育を受けられることは、筑波大学の学生にとって大きなメリットだ。

国家プロジェクトと筑波大学

現在筑波研究学園都市は、筑波大学や「JAXA 筑波宇宙センターをはじめとする多くの教育・研究機関や企業、2万人以上の研究者を有する日本最大の研究開発拠点となっている。街中には、ペDESTリアンデッキなど特徴ある都市インフラが多く整備されている。

ペDESTリアンデッキは筑波大学まで延びており、多くの学内関係者が移動する際に使用している。筑波大学が国家プロジェクトによって建設された大学であるからこそ、こうして学内で学園都市特有の雰囲気を感じられるのだ。

(熊谷)

令和3年2月19日、令和2年度のつくば市長と筑波大学学生との懇談会が実施された。例年9月頃に開催されていたこの懇談会は、つくば市長選や新型コロナウイルス感染症の影響により例年よりも5か月遅れ、オンラインでの開催となった。

五十嵐立青市長は冒頭のあいさつの中で「学生の意見は行政にとって非常に重要だ」と述べた。他の自治体より人口比における学生の割合が大きいつくば市だからこそ、学生の思いや声を大事にしていきたいという。

市長と学生の懇談会

懇談会では主に、市長の講話や学生との意見交換が行われた。講話の中で市長は、今後の市長活動やこれから目指していきたいつくば市の姿について熱く語った。意見交換の場では、学生らがつくば市での生活で感じた等身大の問題や、市長が学生の考えをすくい取ろうとする質問に対する討論が活発に行われた。

(北川)



筑波大学誕生秘話

かつては田園風景が広がっていた筑波の地に、なぜ研究学園都市が建設されることになったのだろうか。

始まりは国による研究学園都市案の発表だ。これは1960年代に東京の過密対策と高水準の研究・教育拠点の形成のために行われたものだ。当時、候補地には富士山麓・那須・赤城・筑波の広大な土地をもつ4カ所が挙げられた。

その中から都心へのアクセスの良さ、豊富な水資源、安定した地盤の三つが備わっていた筑波の地が選ばれた。しかし地理的要因以外に、企画書を霞が関に送り対策課を設置した行政の熱意と、開発や立ち退きに協力的な地元民の存在があったことが大きかった。

その思いは今日まで受け継がれ、私たち学生は地域の支援を受けながら生活している。

(鈴木)



新型コロナウイルス感染症流行に係る学生への食料支援事業について

令和3年1月22日、筑波大学グローバルヴィレッジと平砂共用棟において、新型コロナウイルス感染症に係る、学生への食料支援事業が行われた。会場には長蛇の列ができ、約3000人の学生が食料を受け取った。配付された食料は、地元企業をはじめとした多くの企業や教職員が提供したもので、その量は約20トンに及んだ。「地元企業や教職員の協力は想像を遙かに超えるものだった」と学生

生活課の担当職員は語る。
食料支援事業が始まるきっかけとなったのは、令和2年11月の新型コロナウイルス感染症流行第3波の到来だ。11月から12月にかけて本学学生に対して学内調査を行ったところ、アルバイトの減少などにより生活に困っているという声が寄せられた。そこで本学と親交のある企業に問い合わせると「食料なら寄付できるかもしれない」と支援を申し出てくれたという。1月上旬には学内で食料支援事業の実施が決定し、学内調査から約1ヵ月後には学生への食料支援が実現した。支援の実施が決まってすぐに地元企業をはじめとした多くの企業の方々や教職員に食料寄付の広報を行ったが、初めは配布できるほど食料が集まるのか不安を感じていたという。しかし寄付の規模は予想を遙かに越え、3週間弱で約20トンの食料が集まった。予想以上の寄付に、次は、全て配り切れるのかという不安が浮かんできた。しかしそれも杞憂だった。予想以上の数の学生が食料支援を受けに訪れ、途中からは個数制限をかける必要がなくなるほどとなった。

この食料支援事業はテレビやネットニュースに取り上げられ、反響を呼んだ。これを見た地元企業や卒業生などから「第一回では寄付できなかったが、次の支援で使ってほしい」と食料の寄付があった。第一回の支援で食料を受け取ることができなかった学生も多くいたため、すぐに第二回の食料支援が決定した。

2月17日、18日に実施した第二回の支援では、第一回の反省が生かされた。第一回では多くの人が訪れ混雑し、ボランティアの人手不足も発生した。このことから第二回はweb予約制で2日間にわたって実施し、事前に「FACT（つくばアクションプロジェクト）」でボランティアを募集した。その結果、よりスムーズに支援を行うことができたという。

5月22日には第三回の食料支援が実施されたが、今回は寄付を募ったわけではなかったそうだ。第二回の支援実施後に、是非学生に配布してほしいと地元企業などから追加で寄付があった。そこで「新生活応援食料支援」として、新入生への支援が決定された。また今回は授業が無い土曜日の実施となった。ここには学生からの「授業の時間と被ってしまい、支援を受けることができなかった」という声も反映されている。

今後の食料支援については新型コロナウイルス感染症流行の状況と学生の声によって実施を検討する。また食料支援自体を「FACT」によって学生中心で行うことも考えているそうだ。

「地元企業をはじめとした多くの企業や教職員、卒業生や学生ボランティアの協力があったからこそ、大規模な支援を行うことができた。学生も是非「FACT」などを使ってやりたいことに挑戦してみたい」と事業を担当した職員は話す。

(菅原)

全代会活動報告

第五回本会議

日時：令和3年1月20日（水）18時30分
場所：Microsoft Teams
出席：出席46 遅刻4 早退3

議題『来年度学園祭学生分担金の額及び
納入方法に関して』

【採決結果】（採決時45名）

承認：44
否認：0
保留：1

↓賛成多数で可決された。

実施内容

令和2年度全代会第五回本会議では、学内行事委員会が担当する学園祭学生分担金の金額とその納入方法についての審議が行われた。「学園祭に関する申合せ」第3条によると、学園祭を全学的なものにするために、すべての学生は学園祭学生分担金を納入しなければならないこととされている。

そこで同規則第4条に基づき、納入の金

額と納入方法を決定するために、左記の内容で決議が行われた。

【学園祭学生分担金】

納入金額：1人1年につき600円
納入方法：学群生入学・編入年度に在籍予定年数分を一括で納入する

この会議にはオブザーバーとして学園祭実行委員会財務局長が参加しており、学園祭実行委員会の提案した右記の意見をもとに、全代会がそれを承認するという形で審議が行われた。会議は円滑に進み、無事に議題が承認された。

第六回本会議 活動報告

日時：令和3年1月27日（水）18時30分
場所：Microsoft Teams
出席：出席42 遅刻0 早退1

議題『学生団体の活動に係る諸手続きのデジタル化に関して』

【採決結果】（採決時41名）

承認：40
否認：0
保留：1

↓賛成多数で可決された。

実施内容

令和2年度第六回本会議では、

浅賀巧匠さん（生物学類3年）によって議題が提出された。

現在、学生組織には非効率な紙媒体での手続きが残っており、デジタル化への要望が多くある。そこで、当時学生担当副学長であった佐藤忍教授（生命環境系）に対しデジタル処理の導入を求める提言についての審議が行われた。

議題説明では、手続きのデジタル化についての利点として、現在の新型コロナウイルス感染拡大への対策と、手続きの負担軽減・効率化・ミス軽減が挙げられた。また、政府が令和2年12月に「デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針」として、社会のデジタルトランスフォーメーションを推進していることにも触れられた。

そして、今後の具体的なビジョンも提案された。主に提案の内容はシステムの構築についてであり、既存システムの活用に加えて、不足する部分を新たなシステムの導入で補っていくということが伝えられた。一例として、国立大学法人東北大学における事務作業のオンライン化を挙げ、本学にも現代社会への柔軟な対応を求めるという旨が伝えられた。

会議は円滑に進み、議決が行われた。令和2年度最後の本会議ということもあり、閉会の際に当時の議長が感謝の言葉述べた。

（蒐場）

参考文献一覧

科学技術庁計画局『筑波研究学園都市要覧，昭和57年』大蔵省印刷局，1978.7
三井康寿『筑波研究学園都市論』鹿島出版会，2005.5

つくば市 HP『筑波研究学園都市とは』（最終閲覧日：2021年6月17日）

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/jigyosha/machinami/kenkyugakuen/1002135.html>



全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
広報委員会
<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/zdk@stb.tsukuba.ac.jp>

全代会では随時専門委員を募集しています。
興味のある方は上記のメールアドレスまでご連絡ください。

Campus

全代会の広報誌
Online 2021
2021年6月30日発行

編集長
発行人
表紙デザイン案
デザイン
編集委員

北川汰知
佐藤翔哉
鈴木泰我
鈴木泰我
稲富拓人
太田なみ
熊谷菜々
菅原由乃
鈴木斗音
中山皓太
蒐場広翔
松本琉那
三好真生

上野莉穂
江波戸憧音
小山杏奈
片岡真絃
佐藤陽亮
三河優
宮西真杏
村松真緒